

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価（3月11日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○カリキュラムマネジメントを進め、「わかる」「できる」「伝わる」力の育成を目指す。	①一人一台端末の整備とＩＣＴ活用を進め、育てたい力を明確にした指導計画による授業実践・授業改善に取り組む。	①ＩＣＴ活用のための研修や基盤整備を進める。  ②単元配列表と年間指導計画の統合整理を行い、カリキュラムマネジメントを明確に進める。	①ＩＣＴ活用のための研修や基盤整備が進んだか。  ②各種書式の見直しにより、系統的な計画と実践が進展したか。	①一人一台端末や電子黒板が整備され活用が進むとともに教員の活用能力も向上した。  ②単元配列表の作成が進み、個別教育計画の書式も一部改善できた。	①教員のニーズに基づいた研究・研修を行い、さらにＩＣＴ活用能力を高める必要がある。  ②単元配列表を活用し教科横断のかつ系統的な教育課程編成を検討する。	[保護者アンケート]ＩＣＴ機器を活用した授業づくりを工夫しているか。肯定的 64% 否定的 10% 分からない 26% [学運協]単元配列表は生徒が3年間で何を学んできたのかが分かるので、進路先にも提供できると良い。	文科省教育の情報化実態調査では、本校教員のＩＣＴ活用能力「ややできる」以上が前年度47.3%より 16.6%アップした。アンケートによれば保護者にはその活用状況が十分に伝わっていない。	同調査の全国平均よりは低い。今後も教員のニーズに基づいた研究・研修を行うことで、教員の情報活用能力を高めるとともに、保護者にもその活用実践授業について伝えていく工夫が必要である。
2	児童・生徒指導・支援	○児童生徒一人ひとりの特性や教育的ニーズを的確に把握し、支援・指導を組織的に行う。	①アセスメントに基づいた個のニーズに応じた支援・指導に組織的に取り組む。	①アセスメントの意義と活用の理解を図るとともに、「輝く座間支援の子どもたち」を通じて多角的な支援・指導に取り組む。	①アセスメント活用が組織的に推進できたか。多角的な支援・指導に取り組めたか。	①アセスメントを実施した学年では、結果をもとに個別教育計画の作成や日々の支援・指導に活かしていくことができた。	①専門職等と連携した多角的な視点からの支援について、「輝く子どもたち」に限らず日常的に継続可能な取組をしていく必要がある。	[学運協]チームでの支援の大切さがよく分かった。意思決定支援が教育、福祉、医療とつながっていくと良い。学校が子どもたちにとって安心安全な基地のひとつになると良い。	アセスメントの結果を基に担任と専門職等が連携し、指導計画に反映したり日々の授業実践に活かしたりする取組が進展した。一方、定期的なチーム会議設定は負担感がある。	「輝く子どもたち」の取組は一定の成果を生んだので、日常的な話し合いや打合せ等の中で多角的な視点で個別の支援や授業づくりを考えていくなど持続可能な取組に移行する。
3	進路指導・支援	○一人ひとりの社会的自立や生活の充実をめざし、主体的な進路選択や個に応じた進路実現を支援する。	①自立や生活の充実のための自己決定・選択力や意思表出力を育成するとともに、本人保護者と適切な進路情報を共有する。	①小中高のそれぞれの段階に応じた進路に係る支援・指導に取り組むとともに、ニーズに応じた情報を提供し、共有化を図る。	①早い段階から進路を意識した系統的な取組ができたか。	①全学部の懇談会で進路説明会を実施し、学年に応じた情報を保護者に発信することができた。	①それぞれの保護者のニーズと学校として知っていて欲しい情報の整理を行い、各学部進路説明会等で情報共有を図る。	[保護者アンケート]進路や福祉制度について早い段階から情報共有がなされているか。肯定的 91% 否定的 8% 分からない 1%	夏季休業中の施設見学や通信などを活用して幅広く情報提供を行えた。年金や福祉の説明会では外部講師を活用できた。	福祉制度や手続き等についての情報発信を工夫し、新規開拓した進路先情報についても周知を図っていく。
4	地域等との協働	○地域との連携及び地域資源を活用した教育活動を積み重ね、地域に開かれた学校づくりを推進する。  ○センター的機能を充実させるとともに交流及び共同学習を進め、インクルーシブ教育を推進する。	①近隣小学校・高校との交流や、地域資源の活用、関係機関との連携を推進する。  ②センター的機能の充実を図り、インクルーシブ教育推進について理解啓発を図る。	①入谷小、座間高、分教室設置校との児童生徒交流や職員交流研修を積み重ねる。  ②学校全体でセンター的機能における支援力を向上させるとともに、切れ目ない支援部会の活動等によりインクルーシブ教育の理解啓発を図る。	①近隣校との交流による連携が深化したか。  ②地域と連携したインクルーシブ教育の理解啓発が図れたか。	①近隣小中高との交流活動が深まるとともに、高等部作業学習では、座間駅商店街の飲食店等と協働することができた。  ②インクルーシブ教育の視点を持って巡回相談・公開研修会を実施した。公開研修会については、外部から80名を超える参加者があった。	①学校間の交流および共同学習だけでなく、積極的に地域の資源を活用した協働活動にも取り組んでいく。  ②切れ目ない支援部会の活動を充実させながら、インクルーシブ教育に対する視点・見識をさらに深め、地域の会議等で発信していく。	[学運協]小、高、支援学校の3つが隣合う立地はインクルーシブ教育を進めていくのに良い環境である。年間計画を共有するなどしてもっと連携を深めていってほしい。地域と学校との双方向という関係性を視点にwin-winの関わりを進めていることは高く評価できる。	学校と地域との協働活動が地方ＴＶ番組の取材を受け、ＴＶ放映という新たなメディアでも情報発信できた。センター的機能として、巡回相談は15校21回、外部講師として14回、地域の学校と連携した。各市教委との連携強化が課題である。	より多くの児童生徒が地域資源を活用できるように、近隣学校との交流活動、地域との協働活動を進めていく。またコミスクとしてのつながりを校内外の活動に活かしていく。インクルーシブ教育の視点からの地域支援をさらに継続していく。
5	学校管理 学校運営	○安心で快適な教育環境整備を進め、組織的・計画的な学校安全管理を推進する。  ○組織的な学校運営と校務の効率化を図り、児童生徒と向き合うための時間を確保するとともに、不祥事・事故防止に努める。	①緊急事態に対応する訓練を充実させるとともに、地域一体となった防災体制を構築する。  ②業務のスリム化を推進し、働きやすい職場環境をつくることにより、事故の未然防止、不祥事ゼロを達成する。	①各種の緊急事態を想定した訓練を実施し、防災部会の活動等による地域と協働した安心安全な教育環境を整備する。  ②業務スクラップ検討を行い、スリム化を断行する。また同僚性の向上等により余裕をもって業務遂行することで事故・不祥事の防止に努める。	①関係機関と連携し安心安全な教育環境を整備できたか。  ②業務スリム化が具体的に進展したか。また事故の未然防止、不祥事ゼロを達成できたか。	①防災部会を通して、本校の防災上の課題を地域の防災組織と共有することができた。  ②適宜業務の見直しを行い、業務のスリム化を図ったが、超過勤務時間の大幅な短縮には至っていない。	①今後も地域・近隣の学校や関係機関と連携し、組織的な防災体制を構築する。  ②各学部・グループ内での業務スリム化を推進するとともに、学校全体での業務改善に一層取り組む必要がある。	[学運協]この地域が軟弱地盤であると再認識した。液状化対策など具体的な対応を考えていかなくはならない。災害が人災とならないよう準備が必要。生徒等が防災に主体的に考える機会を作ってはどうか。業務改善は時間の確保以外にメンタルヘルスの問題改善の視点も必要である。	毎月のシェイクアウト訓練が定着し、児童生徒の防災意識も高まり、地域との連携も進展してきた。業務改善の進捗については、日課表の改善などが着手されるなど一定の成果も見られたが、働きやすい職場づくりをさらに推し進めなくてはならない。	日々の授業においても、教科横断的な防災教育や児童生徒の自主的な防災活動も検討していきたい。働き方改革は多様な勤務形態がある中で、教育的効果と業務スリム化のバランスを検討しながら、引き続き業務改善を図る。